

# 大阪市港区における取り組み内容と事業費の関係について



## ～国道43号沿道の環境対策～

### 大阪市港区について



港区基本情報 (H28.5現在)  
 ・面積 7.86km<sup>2</sup>  
 ・人口 約82,000人  
 ・世帯数 約40,000世帯

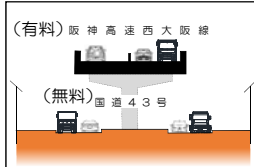
### 背景・課題・対策

#### 国道43号

港区を縦断し、神戸方面と堺方面を接続する阪神間臨海部の主要幹線道路

#### 状況 (港区内)

- ・大型トラックが比較的多い
- ・交通渋滞が課題
- ・沿道には住宅が多く、隣接して学校なども多く存在する
- ・上部に高架(阪神高速西大阪線)があり、国道43号に“蓋”をした状態
- ・かつては毎年、大気環境基準を超過していた



#### 対策

- ・西大阪線料金対策…西大阪線の料金を下げ、国道43号の交通量の抑制を図る
- ・国道43号ハード対策…低騒音舗装・車線拡幅・交差点改良 など
- ・国道43号ソフト対策…モビリティ・マネジメント (MM) を実施  
 「環境にやさしい交通をすすめるプロジェクト」を組織  
 (組織構成: 港産業会、港区都市環境協議会、大阪府トラック協会、大阪大学、大阪市、国交省など)  
 主に大阪府が事務局として対応

### 取り組んできたMMメニュー



### MMの効果検証

今回は、比較的「費用」「効果」の算出が容易な「交通便利マップの作成・配布」について検証を行う

### 交通便利マップの内容

まずは手に取ってもらえるよう、地域に密着した情報等を掲載しています

#### 基本情報

公共交通 バス・鉄道路線図	公共交通 渡船路線図	自転車 駐輪場案内図
公共交通 バス時刻表	公共交通 渡船時刻表	その他 バス接近情報アプリ紹介
公共交通 バス所要時間情報	高速道路 高速道路路線図	その他 エコドライブ啓発
公共交通 市内主要バスのりば案内	高速道路 高速道路IC案内図	その他 マイ時刻表作成表
公共交通 バスの乗り案内	自転車 自転車マップ	その他 各種問合せ先など

#### より手に取っていただくために

表紙には区のコンテスト受賞作等を採用

区の通年のイベントカレンダーを掲載

区内観光ポイントや優良景観ポイントを紹介

港区地域ブランドプロジェクト「みなトクモン」などの情報を掲載

外国語対応 [市営交通HP(外国語版)のQRコードを掲載]

### マップの配架場所

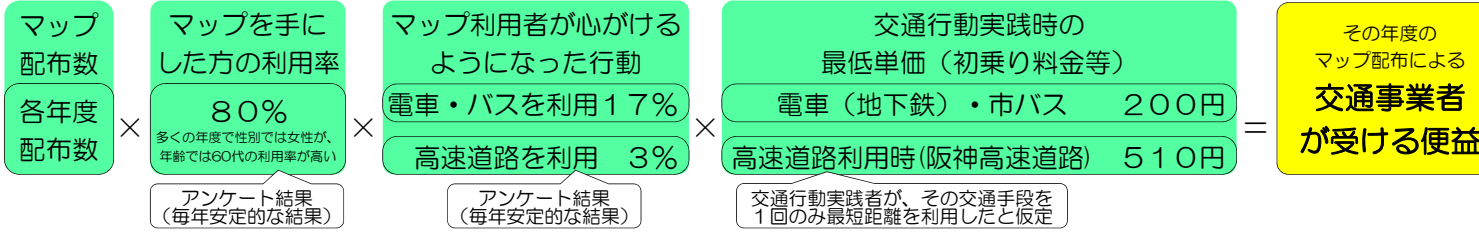
区民だけでなく、観光客にも利用していただけるように配慮しています

区内鉄道駅	地下鉄 弁天町駅	区内	区民センター
	地下鉄 朝潮橋駅	公共施設	近隣センター
	地下鉄 大阪港駅		住民情報センター
	JR 弁天町駅		地域会館等(11地域)
区内ホテル	ペイタワホテル		環境局
MM施策	区役所転入者窓口		老人福祉センター
	エコドライブ講習会	区内イベント	みなと区民まつり
	フードマイレージ授業		天保山まつり



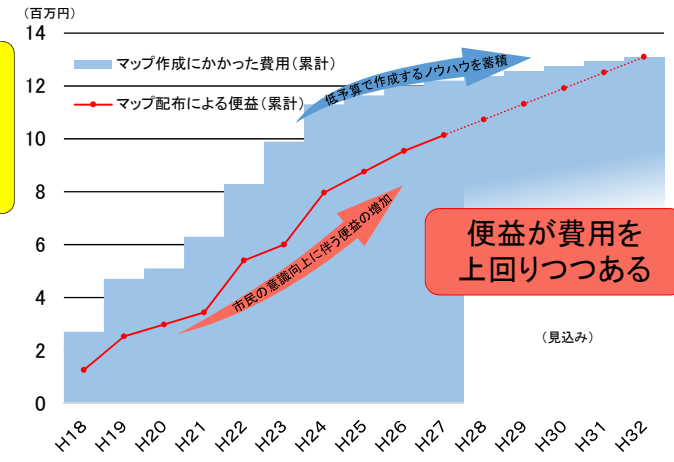
# MM（交通便利マップ配布）の効果

## 1. 交通事業者（大阪市営交通・阪神高速道路）が受ける便益と費用のバランス（金銭換算が可能な便益）

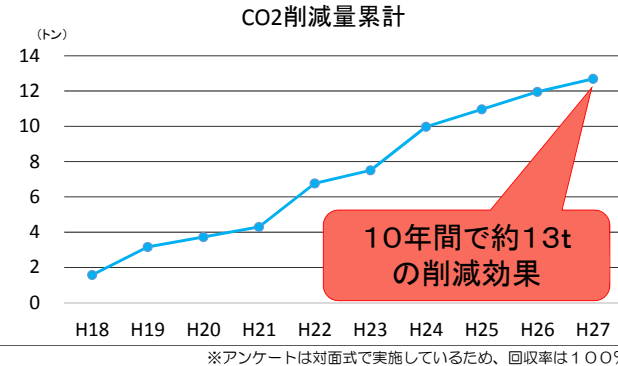
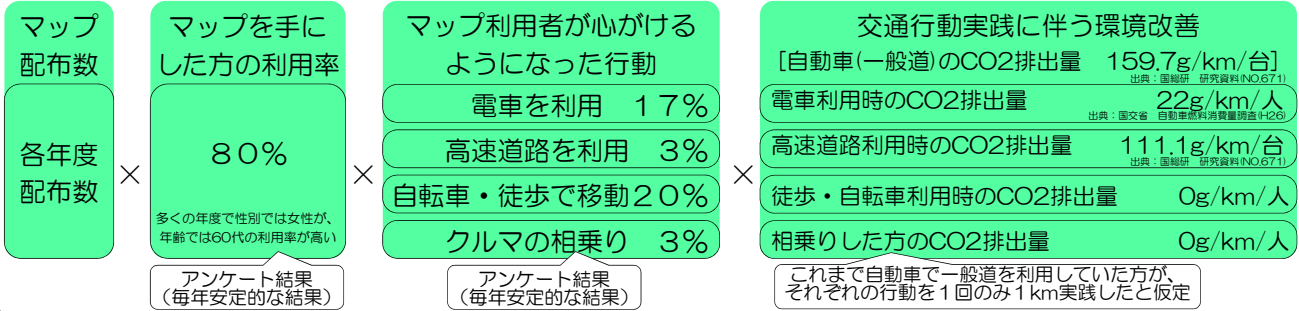


年度	マップ作成費(千円)	マップ配布数(部)	便益(千円)	備考
H18	2,700	32,000	1,262	マップ初期構成 転入者数: 5,474人
H19	2,000	32,000	1,262	情報更新+自転車マップ作成 転入者数: 4,977人
H20	400	11,500	454	情報更新 転入者数: 4,918人
H21	1,200	11,500	454	構成変更(エリア別→区全体版へ) 転入者数: 2,511人
H22	1,990	50,000	1,972	情報更新 転入者数: 4,350人

年度	マップ作成費(千円)	マップ配布数(部)	便益(千円)	備考
H23	1,600	15,000	592	構成変更(A2四つ折→ポケットサイズへ) 転入者数: 4,087人
H24	1,410	50,000	1,972	情報更新 転入者数: 3,861人
H25	350	20,000	789	情報更新 転入者数: 3,789人
H26	370	20,000	789	情報更新 転入者数: 4,202人
H27	180	15,000	592	情報更新 転入者数: 4,381人



## 2. 大気環境に寄与する効果（CO2の削減(1km/人あたり））



## 3. 地域とのつながりなどからみた成果（交通便利マップに限定しない）

港区は、地域のつながりが今なお強く、住民どうしの交流も活発で、従来より地域と行政の協議体制が整っていた。

国道43号沿道対策の実施にあたっては、地域の協力によって、話し合いで、渋滞、環境などの課題の解決を図ることとなり、ハード対策などとともにMMを実施している。現在では、地元から感謝の言葉をかけていただけている。

地元と行政が対話によって対策を実施する方法は、対立しあう方法に比べ、互いに前向きな姿勢で、信頼関係を築きながらより良い結果を生み出している

## まとめ

今年度で11年目を迎え、交通事業者の収支的な効果や、環境改善に資する効果など、事業継続による定量的な効果の把握が可能となった。また、事業立ち上げのためには初期投資の確保が必要であるが、継続的に実施すれば初期投資に見合う成果が出せる可能性があることや、地元との信頼関係の構築等の計り知れない効果があることも判明した。